

国土地事始め



大石久和

国土学アナリスト

明治を迎えたわが国は、とんでもないといえるほどのスピードで近代化に向けて走り出しました。いまの政治の混乱からみると、明治政府の行った政策の手順の正しさと速さには驚きを

当時の軍部は、太平洋沿岸を通る現在のルートに反対していました。それは列強の海軍からの艦砲射撃があれば鉄道が破壊されてしまうからというものでした。したがって、

禁じ得ませ

設しながら、東海道線も整備していったことを示しています。それほどに全国ネットワークの早期整備に熱意を傾けていたことを示していますね。

そのなかに

東海道線をどこに敷設するのか

東北本線（現在の青い森鉄道）もいまは八戸回りですが、これにも海岸から近

全国的な鉄道網の建設がありました。鉄道に先行する形で通信網も全国的に早期に整備したことも特筆に値します。これらは、明治政府が「西列強」による植民地化や彼らからの攻撃を非常に心配して

完成させています。新橋・横浜間のわずか17年後という早さに驚きを禁じ得ません。この時に、東京から大阪・神戸を結ぶ鉄道をどこに敷設するかについて、大議論があった

軍は現在の中央線ルートで、東京と神戸を結ぶべしと主張したのでした。

いと軍部は反対したのでした。もし軍の主張が通つたれば、今日の八戸市の発展はなかつたことでしょうね。今回の事始めは、平和ボケの今日にはなかなか理解されない昔の事実の紹介でした。